

SELVA@ HARE CHIKA

2017.11.10(FRI)-11.16(THU)

秋の読書をもっと楽しく! 11月10日(金)~16日(木)まで、
岡山一番街ハレチカ広場にセルバが出店します!

占いや可愛い雑貨の販売も予定。
通勤通学の途中に、お買い物の
ついでに寄りやすくなる期間中、是非
お立ち寄りください。欲しかった・
読んでみたかったあの本を、今。

10月に観たのが
『エルネスト』
オカキリジョーが全編
スペイン語で、演じる
日系ポリアノ人の物語。
映画の原案となった
本も発音中です。

2時間あったら
他の映画も
観た。

何年かたの
映画館嫌いが
消えた。
(何故か)

ネット上(1回限)
ミニマター
行きたい
なところ。

2017年
10月

フレディ
前村。



◆文芸『たゆたえども沈まず』原田マハ/幻冬舎、1,728円/天才画家・フィンセント・ファン・ゴッホと、商才溢れる日本人画商・林忠正。二人の出会いが、「世界を変える一枚」を生んだ——誰も知らない、ゴッホの真実とは。時は1886年、栄華を極めたパリの美術界に、流暢なフランス語で浮世絵を売りさばく一人の日本人がいた。彼の名は、林忠正。その頃、全く絵の売れないゴッホは、放浪の末、パリにいる画商の弟・テオの家に転がり込んでいた。兄の才能を信じ、肉身的に支え続けるテオ。そんな二人の前に、忠正が現れたこと。運命は大きく動き出す——!! 『楽園のカンヴァス』『暗幕のゲルニカ』の著者によるアート小説の最高傑作。◆文芸『こはる日記』益田ミリ/KADOKAWA、1,296円/「見ふっつ」の日に、痛かったり、まらきらいたり、いろんな気持ちで詰まってる。何気なく過ぎていく日々の中、揺れ動く感情を切り取った1コマ1コマが、大人になりたい、大人になりたくない私たちの心の奥、何かを揺り起こしていく。10代をぐり抜けてきたすべての人に贈る、益田ミリの最新コミック。ちなみに、『今日の人生』(ミヤマ社)もまだ好評発売中です!! ◆ビジネス『宅配ワライス』日本経済新聞社/日本経済新聞出版社、1,620円/2017年春、ヤマトが宅急便の総量抑制を決定、続いて27年ぶりの値上げを発表した。日本の物流を支える「動脈」として機能していたヤマトに、何が起ったのか。多くの日本企業が抱える、過剰サービスへの呪縛、「働き方改革」「人手不足」の中で起る混乱…ヤマトだけではなく、佐川・日本郵便などの物流業者や、アマゾン・楽天・ヤフーなどのネットサービス業者への取材をもとに、危機の実像と未来像を描き出す、迫真のレポート。◆

HONJO

- ◆岡山店 (第1セントラルビル好日山荘内) 10:00~20:00
電話: 086-234-6006 FAX: 086-234-6003 メール: hselva@po.harenet.ne.jp
HP: <http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72050>
- ◆西口店 (奉還町商店街内) 9:30~16:30 日・月休 電話: 086-250-4301 FAX: 086-250-4316
HP: <http://www.e-hon.ne.jp/SHOP72059>
- ◆さんすて岡山店 8:00~20:00 電話・FAX: 086-803-2650 メール: pselva@po.harenet.ne.jp

世界は
謎解きに
満ちている。



7人の名探偵

新本格
30周年記念
アンソロジー



◆新本格ミステリゲームを牽引したレジェンド作家7人が、「名探偵」をテーマに書き下ろしたミステリがずらり! ファン垂涎のアンソロジーの誕生です。ミステリファンならもう手に入れたであろうこの一冊、ミステリはあまり読まないし... という方にも是非お薦めしたい! 実はミステリは読まなくても、本が好き、書店をぶらぶらするのが好き、という方なら、「この7人の名前が一人も分からない」という方は「ほんといないのではないか」と思います。そして一人も名前が分からなかったとしても、代表作を聞けば「あ、あれを書いた人なの?」と思われるのではないかと..... 今や日本のミステリ界を作ってきた、と言っても過言ではない7人の描く「名探偵」。果たしてどんなミステリが収録されているのか? ミステリなので詳しくは書けませんが、それぞれのあらすじを2面で紹介します! →

『7人の名探偵』 綾辻行人、歌野晶午、法月綸太郎、有栖川有栖、我孫子武丸、山口雅也、麻耶雄嵩 / 文芸第三出版部・編 / 講談社 / バルス、1,080円

山陰の山中で道に迷い、助けを求めた巨大な洋館「大鏡家」で、莫大な資産の相続権を持つ四人の孤児たちを襲う連続殺人事件に遭遇する。麻耶雄嵩『水曜日と金曜日が嫌い』。還暦祝いの席で起こった殺人事件。死ぬ間際に「二人の嘘つきに気をつける」と残して死んだ男……嘘をついているのは、一体誰だ？古典落語「饅頭こわい」の四十年後を描く・山口雅也『毒饅頭怖い』。被害者、現場の状況、血痕の飛び散り方や証拠品を分析し、犯罪者を捕まえていく完全無敵の「名探偵のAI(人工知能)」。この「名探偵」に関わった者たちを襲う恐怖とは。我孫子武丸『プロジェクト:シアーロック』。兵庫の山奥の村で殺された、元船乗りの男。犯人は男と関係を持った女たちか、それとも……犯罪学者、火村と作家アリスのコンビが活躍する、有栖川有栖『船長が死んだ夜』。相次いで不審な死を遂げた二人の男。不可解な事件は、現場に残された遺書は、なぜか入れ違いになっていた?!のこの謎に奇妙な手がかりから背後に隠された愛憎を暴く・法月綸太郎『あべこべの遺書』。戦争が始まり、地下シェルターに避難した特別な才能を有した子供たち。名探偵である天才少年が新型爆弾の衝撃で意識を失っている間に、シェルター内ではひとり、またひとりと殺されていく……天才少年は目覚め、この謎を解き明かせるか。歌野晶午『天才少年の見た夢は』。そして、このペンロジエに参加している多くの作家たちがかつて所属していた京都大学推理小説研究会で発表されたはずの、「幻の傑作」の存在に迫る裏話、最後にどんでん返しが待っている・綾辻行人『仮題・ぬえの密室』。お気に入りが見えつゝ充実の内容、これで1,080円は安い! 梨も凝っていて、7人のうち誰かの作品の名言が書かれたものが一冊につきひとつ、手に入ります。

ノーベル文学賞・カズオ・イシグロ

「壮大な感情の力をもちた小説を通し、世界と結びついているという我々の幻想的感覚に隠れた深淵を暴いた」として今年ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロ。気になっているけれど、まだ読んでいない……という方、ハヤカワ文庫で日本語訳が発売中ですよ!是非、店頭でチェックしてみてください。

- デビュー作『遠い山なみの光』 756円
- ピューカ賞受賞作『日の名残り』 821円
- 代表作『わたしを離さないで』 864円
- 最新作『忘れられた巨人』 1,058円

ロングセラーを記録中の文庫たち

目立って売れている訳でも、XティアやSNSで話題!という訳でもないけれど、地味〜に、少しずつ、いつの間にか売れている……そんな不思議な文庫が、実はあるのです…そのうちの2冊を!

『美少女美術史』 筑摩書房

池上英洋、荒井咲紀 / ちくま学芸文庫、1,026円

幼く儂げな少女たち。この世の美を結晶化させたその姿に、人類のどのような理想と欲望の歴史が刻まれているのか。西洋美術史を専門とある東京造形大学教授・池上英洋による、西洋絵画における「美少女」論。本来西洋絵画に存在したからこそ「美少女」が生まれた理由とは?なぜ人は「美少女」に魅惑を感じるようになったのか?豊富なカラー図版とともに、あなたの知らない「美少女」の秘密を探る一冊。その他、シリーズで『美少年美術史』『官能美術史』『残酷美術史』もあり。お好みにあわせてどうぞ。

『カニバリズム論』

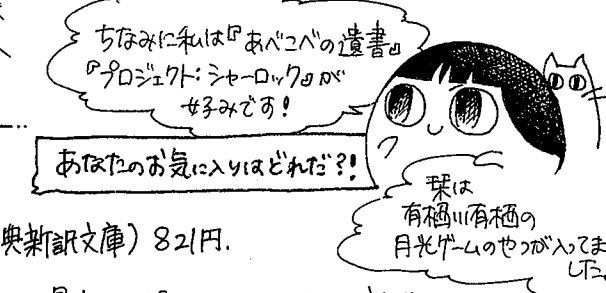
中野美代子 / 筑摩書房(ちくま学芸文庫) 1,296円

人類の根源的タブーのように思われながら、実はとつとつその痕跡は古来より無数に残されてきた「カニバリズム(人肉嗜食)」。中国文学、中国文化を専門とする著者が、古今東西の記録・小説から、カニバリズム、纏足、宦官など血の滴るテーマで人間の真実に迫っていく異色の作品。

『神を見た犬』

ブッツァーティ / 光文社(古典新訳文庫) 821円。関口英子(訳)

20世紀のイタリア文学界において特異な存在感を放ち、「幻想文学の鬼才」と称されるブッツァーティの残した膨大な巻数の短編集の中から、代表的な22編を選んだ短編集。まず最初の「天地創造」から驚かされる。想像力豊かに、恒星や星雲、惑星や彗星などをあちこちにちりばめ、ようやく宇宙創造の作業を終えた全能の神のもとに、とある天使の若手グループが資料も見積書も持たずプレゼンにやってくる。数多ある惑星とは全く違う特徴をもつ星を作りたいという。種々の条件を勘案すると、その小さな球体には、極めて興味深く、楽しい現象があらわれるらしい。それはすなわち、生命……そして今度は、その生命のデザインを売り込むために、多くの天使(デザイナー)たちが、企画を持ち込んでくることになる。



この最初の一編で、これから私たち読者が出会うであろう物語の世界は、キリスト教的価値観と、ブッツァーティ個人の想像と現実が複雑に絡み合いながら紡がれていくのだと感ずる。そんな風にして創造されたこの美しく儂い星で、ある時は喜び、ある時は悲しみ、誕生し、成長し、繁殖し、いっしか平等に死を迎える人間たち。表題作の『神を見た犬』では、神を冒瀆する貪欲な男が、自分も気付かぬうちに一匹の犬の中に神を見出し、恐れを抱くようになるが、しかしラストシーンで明かされる真実は、そんな彼の姿をあざ笑うようでもある。この世界に間違いなく神はいるし、また同時に、神などというものは存在しない、のかもしれない。

政治、戦争、宗教、科学、家族、病、死……人間が生きていく上で避けては通れないテーマを取り上げた珠玉の短編集。どれも全二巻素晴らしいです。最近、いい本に出会えてないな……という方にも、おすすめします。

セブンイレブン 売上 Ranking 2017.10 岡山店調べ

1. マスカレード・ナイト 東野圭吾 / 集英社、1,782円
2. 未来の年表 人口減少日本でこれから起きる 河合雅司 / 講談社、821円 <新書>
3. ホワイトラビット 伊坂幸太郎 / 新潮社、1,512円
4. 逆襲される文明 日本人へIV 塩野七生 / 文藝春秋 994円 <新書>
5. アナログ ビートたけし / 新潮社、1,296円
6. 死ぬほど読書 丹羽宇一郎 / 幻冬舎、842円 <新書>
7. この世の春(上下) 宮部みゆき / 新潮社、各1,728円
8. 九十歳。何がめでたい 佐藤愛子 / 小学館、1,296円
9. スタンフォード式 最高の睡眠 西野精治 / サンマーク出版 1,620円
10. LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット / 東洋経済新報社 1,944円

- 文庫
1. 満願 米澤穂信 / 新潮社 724円
 2. 銀翼の1カロス 半沢直樹④ 池井戸潤 / 文藝春秋、821円
 3. まほろ駅前狂騒曲 三浦ほん / 文藝春秋 896円
 4. ナミヤ雑貨店の奇蹟 東野圭吾 / KADOKAWA 734円
 5. 浮浪児1945 戦争が生んだ子供たち 石井光太 / 新潮社、637円
 6. 花咲舞が黙ってない 池井戸潤 / 中央公論新社、799円